英語科学習指導略案

日時 令和4年11月8日(火)2校時
対象 第2学年EF組
場所 2年E組教室

1 単元(題材)名 Unit 5 Goal

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・相手の言葉から必要な情報を聞き取ることができる。 ・shouldやhave toを使って、防災バッグに入れるべき物を言うことができる。	・相手の説明から必要な情報を聞き取り、自分の考えと比べることができる。 ・聞き取った内容を基に、グループで話し合うことができる。	・相手の言葉から必要な情報を聞き取ろうとしている。 ・自分の考えや、友達の考えを聞いて思ったことなどを伝えようとしている。

3 展開 (全3時間)

時間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	should や have to の使い方を知る。 複数の文例を確認し、短作文で定着させる。
2 (本時)	should や have to を使って、自分の考えやその理由を伝え合う。 ★【問いの工夫】「should や have to を使いながら、防災バッグに入れる物を話し合ってみよう。」 ★【活動の工夫】グループで互いの説明を確認し、理解を深める。
3	前時の話し合いの結果をグループで発表する。 ★【活動の工夫】他グループの発表を聞きとる場面を設定した後、自分の should や have to を使い方を振り返り、より良い表現がなかったかを振り返る。

4 本時の展開

ねらい:学んだこと(should や have to)を使って、自分の考えを説明することができる。

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	Greeting Sing a song My Ideal Room(ペア)		
展開 (35分)	○本時のねらい ・本時のねらいを聞き、should や have to の使い方を確認する。		
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 防災バッグに入れる物を5つ考え、優先順位も決めよう。 </div> <p>・品物の説明の仕方を聞く。</p> <p>個防災バッグに入れる物を考え、説明の言葉も考える。</p> <p>集防災バッグに入れる物をグループで話し合う。グループで話し合った結果をまとめる。</p>	<p>・should や have to を使って、どのように説明しているか聞かせる。</p> <p>・should や have to 等が適切に使うことができているか相互に確認させる。</p> <p>・話し合いもなるべく英語を使わせる。</p>	<p>【知・技】 should や have to など、これまでに学んだことを活かしているか。 (プリント)</p>
終末 (5分)	個 これまで学んだ should や have to の表現を理解し、防災バッグに入れる物を説明することができたか振り返る。		【思・判・表】 必要に応じて、自分の説明を加筆・修正することができる。 (プリント)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

英語科学習指導略案

日時 令和4年9月21日(木)3校時
対象 第2学年 EF 組
場所 第3学習室

1 単元(題材)名

You Can Do It! 1

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・交換留学生の自己紹介文から、趣味や好きなこと、したいことなどの内容を読み取ることができる。 ・予定や未来のこと、自分たちの考えなどを話すことができる。	・2人の交換留学生の興味・関心があることを知るために、それぞれの自己紹介文から必要な情報を読み取り、適切に理解している。 ・人の交換留学生がいっしょに楽しむことができる観光プランを、見どころとそこをすすめる理由などを整理して発表している。	・2人の自己紹介文から、必要な情報を読み取ろうとしている。 ・2人の交換留学生の興味・関心にもとづき、伝える内容の整理のしかたを考えて発表しようとしている。

3 展開 (全6時間)

時間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	交換留学生の自己紹介文を読んで、それぞれの興味・関心があることを理解する。個 集 個 ★【問いの工夫】「2人が一緒に楽しめる観光プランを考えよう」
2 (本時)	グループごとに観光プランを発表し、どのプランがいちばんよいかを決める。集 個 ★【活動の工夫】考えたプランを他のグループと共有することで、様々な表現方法に触れ、自分の表現方法の幅を広げる。

4 本時の展開

ねらい:不定詞を使って、観光プランを説明してみよう。

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○Greeting ○Sing a song		
展開 (35分)	○Review ・前時のMikaとSatomiの自己紹介文を聞き、読む。	・前時の授業の流れを確認する。	
	聞き手が興味をもつ発表にしよう。		
	○Think 集準備してきた発表原稿をグループで確認しあう。 グループ内で確認し合い、英文の訂正、また違った表現の仕方を知る。 ○Speak 集グループ内でリハーサルを行う 2グループを1組として、互いの発表を見せ合い、改善点を出し合う。 ○発表をする。	・聞き手が興味をもてるように、表現の工夫を行うよう伝える。 伝える相手に向けて、声の大きさやスピードも考えさせる。	【知・技】 不定詞を使って発表原稿を用意することができている。(プリント) 【思・判・表】 改善点を修正して、より良い発表にしようとしている。(発表)
終末 (10分)	○振り返り 集反省点を出し合う 個グループでの反省点を踏まえて、今後取り組みたいことを考える。	・聞き手に向けて、どのような工夫をしたのか、工夫は成功したのかについて振り返る。	【思・判・表】 表現方法についての振り返りができている。(プリント)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

国語科学習指導略案

日時 令和4年10月19日(水)4校時

対象 第2学年F組

場所 2年F組教室

1 単元(題材)名

古典に学ぶ 平家物語

2 単元(題材)の目標

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、登場人物のものの見方や考え方を知ることができる。	登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。	学んだことを自分の言葉でまとめようとしている。

3 展開(全4時間)

時間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	・平家物語の歴史的背景を知る。 ・冒頭部分を朗読する。 ○冒頭部分から、作品のテーマを知る。【個】
2	・「敦盛の最期」の概要を把握する。 ○登場人物の確認をし、時代背景を踏まえて熊谷次郎直実と敦盛の特徴をおさえる。【個】
3	・「敦盛の最期」を読む。 ○熊谷次郎直実と敦盛に注目し、二人の心情の変化について読み取り、まとめる。【個 集】
4 (本時)	・「敦盛の最期」を読む。 ○当時の武士の心情と現代に生きる生徒自身の心情の共通点と相違点を考える。【個 集】 ★【問いの工夫】「武士の生き方に共感できる部分はあるか、考えよう。」 ★【活動の工夫】登場人物の心情を自分自身の心情と照らし合わせて考えることで、内容理解を深めさせる。様々な心情が想定される中で、生徒同士の交流場面を増やし、多面的に物語について考えさせる。

4 本時の展開

ねらい:登場人物の生き方について、自分の考えをもつ。

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○既習事項の確認 ・「敦盛の最期」の物語の内容と、当時の武士の生き方について再度確認する。	・生徒同士で確認の時間を取り、武士の心情について共通理解を図る	
展開 (40分)	武士の生き方に共感できる部分はあるか、考えよう。		
	○本文の読み取り ・場面ごとに自分の考えを整理する。 個「敦盛の最期」で「助けたいと思っていた敵の大將軍を倒してしまった」場面に対して、「自分が同じ立場だったら、敵の大將軍を助けるか、倒すか」を考える。 集4人グループで意見を共有し、自分とは異なる意見とその理由についても確認させる。 個武士の生き方について共感できる部分があるかを考え、ノートにまとめる。	・自分の考えとそう考えた理由をノートに書かせる。 ・理由は、本文中の言葉を引用させる。 ・4人グループで出た意見をホワイトボードに書かせ共有することで、視覚的に他のグループの意見がわかるようにする。	【思・判・表】 本文中の言葉を使いながら、自分の判断について説明している。 (ノート)
終末 (5分)	○振り返り 登場人物の生き方について、十分に考えることができたかについて振り返る。		【思・判・表】 読み取った武士の生き方に触れながら、共感できる部分、出来ない部分を説明しながら考えようとしている。 (ノート)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

社会科学学習指導略案

日時 令和4年11月9日(水)5校時
対象 第2学年D組
場所 2年D組教室

1 単元(題材)名

5章 2節 開国と幕府政治の終わり

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、開国によって人々の生活が大きく変化したことを理解している。	・幕府が対外政策を転換して開国したことなどに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、開国が政治や人々の生活に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	・欧米諸国のアジア進出が日本の開国をもたらしたことや、開国の影響と江戸幕府の滅亡について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。

3 展開 (全4時間)

時間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1 (本時)	ペリー来航と開国 個 集 ○ペリー来航と条約締結 諸外国のアジア進出とアメリカの接近による幕府の動揺や対応の変化、国内の変化を知る。 ★【問いの工夫】「開国はその後の日本にどのような影響をもたらすのだろうか。」 ★【活動の工夫】開国のもたらした影響を小グループで話しあう場面を設定し、複数の考え方に触れられるようにする。
2	攘夷から討幕へ ○開国の影響 ○幕府の対応への諸藩の動き
3	世直しと江戸幕府の滅亡 ○大政奉還と戊辰戦争
4	小単元のまとめ 集 個 ○明治維新へと日本を動かした一番の要因を考える ★【問いの工夫】「日本を明治維新へと動かした一番の要因を考えよう」 ★【活動の工夫】小グループで発表し合い、複数の要因を考えさせた後、個人で順位付け、理由をまとめる。

4 本時の展開

ねらい:明治維新へと動いていくきっかけと要因を探ろう。

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	○既習事項の確認 ・既習事項から当時の幕府の状況、欧米のアジア進出した背景を確認する。 ・ワークシート記入	・キーワードを挙げ、簡潔に振り返らせる。	
展開 (35分)	○幕府の外交政策 ・幕府の対外政策の方針転換とアメリカのねらい、幕府の動揺と対応を知る。 ☐自分は「開国派・開国拒否派」の意思表示をし、その理由を考える。	・老中阿部正弘の行動が多方面にどのような影響をもたらすのか、という点に着目させる。 ・当時の人々の思いと、開国状態にある自分たちの考え方の違いの理由に気付かせる。	【思・判・表】 当時と現在の考え方の違いの理由を書こうとしている。 (ノート)
	開国はその後の日本にどのような影響をもたらすのだろうか。		
	☑自分の考えをグループ内で伝えあい、当時の人々の開国に対する不安や期待といった思いを予想する。 ☑日米和親条約、日米修好通商条約の内容を知り、締結後の人々の感情の変化を捉える。	・国内の変化に関する資料を基に、人々の感情の変化にどのような影響が出たのかを視覚的に捉えさせる。 ・なぜ不平等なのか、内容、貿易の開始などの影響を幅広く考えさせる。	
終末 (5分)	○振り返り ・本時の内容を振り返り、本時の内容の中で明治維新へと日本を動かした要因をまとめてみましょう。		【思・判・表】 対外政策の変更に触れながら、自分の考えを整理して記述している。 (ノート)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

数学科学習指導略案

日 時 令和4年11月4日(金)1校時

対 象 第2学年D組

場 所 2年D組教室

1 単元(題材)名

4章 図形の性質と合同 1節 平行線と角

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
<p>・平行線の性質や角の性質を理解し、平面図形における角の大きさや多角形の内角や外角の大きさや合計を求めることができる。</p> <p>・三角形の合同条件を理解し、合同な図形の対応する辺や角を求めることができる。</p> <p>・仮定と結論の意味を理解し、証明の意味とその手順を理解している。</p>	<p>・三角形の内角や外角の性質や関係について平行線の性質をもとにして説明することができる。</p> <p>・角の大きさを求める過程で用いられている図形の性質や関係について説明することができる。</p> <p>・2つの三角形が合同であることを、三角形の合同条件をもとにして、説明することができる。</p> <p>・証明の必要性を考え、論理的に証明の手順を説明することができる。</p>	<p>・数学的活動の楽しさやよさを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善し、よりよく問題解決しようとする態度を身に付ける。</p>

3 展開 (全6時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	<p><直線と角①></p> <p>○対頂角の性質を調べ、理解する。</p> <p>○同位角と錯角について知り、性質を理解する。 個 集 個</p>
2	<p><直線と角②></p> <p>○平行線の性質や平行線になるための条件について調べ、理解する。 個 集 個</p> <p>★【活動の工夫】平行線の錯角が等しくなることについて、これまで学習した性質を利用した説明のしかたをグループで考え、複数の方法があることに気付かせる。</p>
3	<p><三角形の角①></p> <p>○三角形の角の性質を理解するとともに三角形の角の性質を利用して角度を求める。 個 集 個</p> <p>★【活動の工夫】三角形の内角の和が180°になることについて、これまで学習した性質を利用して角度の求め方を説明し合う。</p>
4 (本時)	<p><三角形の角②></p> <p>補助線をかき入れ角の大きさを求めるとともに、用いた性質や関係を説明する。 個 集 個</p> <p>★【問いの工夫】「補助線のかき入れ方と求め方を、できるだけたくさん考えよう。」</p> <p>★【活動の工夫】どのような補助線をかき入れれば、これまで学習した性質を利用して角度が求められるか考える。</p>
5	<p><多角形の内角と外角①></p>

	n角形の内角の和を、nを用いた式で一般化するとともに、性質として利用する。 個 集 個
6	<多角形の内角と外角②> 多角形の外角の和について理解し、性質として利用する。 個 集 個

4 本時の展開

ねらい:補助線をかき入れることで、角の性質を利用して角の大きさを求める。

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○本時のねらいを確認し、前回の学習内容を振り返る。		
展開 (30分)	○課題の提示 ・角度を求める問題について考える。 ・これまでの性質を使うためには、補助線をかき入れないと使えないことを知り、どのように補助線をかき入れれば求められるかを考える。 ・補助線をかき入れる方法が1つでないことを知る。	・補助線をかき入れないとこれまで学習してきた性質が使えないことに気付かせる。	
	補助線のかき入れ方と求め方を、できるだけたくさん考えよう		
	○練習問題を解く。 個 補助線をかき入れて角度を求める。 個 補助線をかき入れたとき、どのような性質を使って角度を求めることができるか説明を考える。 集 生徒同士で確かめる。	・これまで学習した角の性質を板書して、確認ができるようにする。 ・様々な考えを知ったり、わからないことを教えてもらえたりできる時間とする。	【思・判・表現】 これまでの学習内容を踏まえ、補助線を使って問題を解こうとしている。(観察)
終末 (15分)	個 確認プリントを解いてみる。 学習カードに授業の感想や質問、わかったことやわからなかったことを記入する。	・60%以上の正答を目標として提示し、自己の理解度を客観的に見ることができるよう支援する。	【知・技能】 確認プリントに取り組み、角の大きさを回答することができる。(確認プリント)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

保健体育科学習指導略案

日 時 令和4年11月10日(木) 5 校時
 対 象 第2学年 EF 組
 場 所 体育館

1 単元(題材)名

ダンス(現代的なリズムのダンス)

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で自由に弾んで踊っている。	表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。	積極的に取り組むとともに、仲間の学習援助や話し合いに参加している。一人一人の違いに応じた表現や役割を認め、健康・安全に気を配りながら取り組もうとしている。

3 展開 (全6時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○オリエンテーション 個 集 ・学習カードの配布、説明、既習事項の確認
2	○基本ステップの習得 個 集 ・新しいステップを覚え、ステップを活用して踊る。
3 (本時)	○グループでダンスを作る。 個 集 個 ・8×200ダンスを作る。 ・既習ステップと組み合わせて踊り、発表する。 ★【問いの工夫】「○○ダンスをつくってみよう。その振りをふまえてダンスをつくろう。」 ★【活動の工夫】グループ毎に考えたダンスを踊ることで、既習のステップを定着させる。
4	○グループでダンスを作る。 個 集 ・前回のダンスに加えて、新しい動きや構成を加える。
5	○グループ分け 個 集 ・はじめ、なか、おわりの3グループに分かれ、係分担を行う。
6	○各グループで創作活動 個 集 ・全体のイメージを話し合い、音楽を選ぶ。 ・ステップを組み合わせてダンスをつくる。
7	○クラス全体で構成を決める 集 ・ダンス全体の構成を決め、練習する。音楽編集をする。
8	○発表会に向けて練習 個 集 ・中間発表をし、お互いに課題、改善策を伝え合う。
9	○発表 集 ・堂々と発表を行う。 ・互いのダンスを認め合い、楽しんで発表を見る。

4 本時の展開

ねらい ・ダンスづくりのやり方を知り、実際に作って踊ってみる。

・仲間と積極的に意見交換をし、ダンスづくりに取り組む。

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○準備運動 ・ウォーミングアップダンスを踊る。 ○出欠確認 ・体育委員を中心に整列、号令を行う。 ○本時の説明 ・本時の目標の確認をする。	・曲に合わせて全身を大きく動かして踊るようアドバイスする。 (T1)	
展開 (35分)	○既習事項の確認 個 ・ABC の曲に合わせて既習ステップの確認をする。 ○ダンスづくり 集 ・6人グループで8×2のダンスを作る。	・既習ステップが正しくできるようアドバイスをする。(T2) ・習得が不十分なステップは復習する。(T1) ・具体的なダンスを紹介しながら、ダンスづくりの方法を示す。(T1)	【主】 仲間との意見交換に積極的に参加できる。 (観察)(学習カード)
	○○ダンスをつくってみよう。その振りをふまえてダンスをつくろう。		
	○振りの練習 ・考えたダンスを取り入れて ABC を踊る練習をする。 ○発表 ・クラスを2つに分け、3グループずつ同時に発表する。 ・正面のグループを見て、学習カードに評価を書きこむ。 ・グループ同士で評価を伝え合う。	・進んでいるグループには、さらに構成を入れることをアドバイスする。(T1) ・あまり進んでいないグループには振りのアドバイスをする。(T2)	【知・技】 全身を使って大きく踊っている。(観察)
終末 (5分)	○学習カード記入 個 ・今日の反省を学習カードに記入する。 ・数名発表する。	・本時の活動を基に今後のダンスづくりが取り組めるよう、本時の反省を記入させる。 (T1)	

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

保健体育科学習指導略案

日 時 令和4年11月2日(水) 3校時
 対 象 第2学年 AB組
 場 所 校庭

1 単元(題材)名
 球技(ハンドボール)

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・ハンドボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、ボール操作と空間に走りこむ動きによってゴール前での攻防を展開することができるようになる。	・個人の技能やチームの課題に応じて練習方法を工夫したり、ルールを理解して、安全かつ公正に試合を進めることができるようになる。	・ハンドボールに積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、各チームの役割を果たそうとすること、健康・安全に気を配ることができるようになる。

3 展開 (全6時間)

時 間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○ハンドボールの基礎的な知識、安全な進め方について学ぶ 個 集 ○対面パス(ショルダーパス、ラテラルパス)、 ○ジャンプシュート 個 集 ★【活動の工夫】学習カードを確認しながら、基本的な用語、ルールを紹介し、ハンドボールゴールの準備、片づけ方法を全員で確認し、今後自分たちで用意ができるようにする。
2	○チームで練習(対面パス、シュート) 個 集 ○試しの試合 3チームの総当たり戦 集
3	○チームで練習(対面パス、シュート) 個 集 ○試合 集
4	○技能テスト(ジャンプシュート) 個 ○試合 集
5.6 (本時)	○チームで練習(チームで考えて実践する) 個 集 ○試合 集 ★【問いの工夫】有効な攻撃や守備を行うために、チームとしてどのような役割を決め、工夫ができるだろう ★【活動の工夫】1試合目の後に振り返りの時間を設け、課題について検討させ、2試合目に生かすようにする。

4 本時の展開

ねらい:チームの課題に応じた練習方法及び攻守の役割を検討し、実践する

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	○準備運動	・安全に配慮しながら、集団行動を意識させる。	【知識・技能】 安全を考慮し、準備運動を積極的に行っている(観察)
展開 (40分)	○ねらいの確認		
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>有効な攻撃や守備を行うために、チームとしてどのような役割を決め、工夫ができるだろう</p> </div> ○チームで練習 個チームの課題を考える。 集チームの課題に合わせた練習を考え実践する ○試合のルールの確認 ・組み合わせや審判を決める ・5分試合 入替3分(振り返り含む) ○試合	・全員が参加をし、これまで行った練習や試合で明らかになった各チームの課題を解決する練習を促す。 ・攻撃や守備に限定して、練習を行わせる。 ・各チームで1試合目の後に話し合い活動を行わせる。	【思・判・表】 チームの課題を把握し、解決策を考えようとしている。(観察)
終末 (5分)	○振り返り 個練習方法を工夫したり、試合の後に話し合いをしたりした結果、どのような攻撃や守備ができたかについて考えさせる。	・良い点と改善点がそれぞれ検討できるように意識させる。	【思・判・表】 良い点と改善点の双方を検討することができる。(学習カード)

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。

理科学習指導略案

日 時 令和4年 11月 10日(木)3校時

対 象 第2学年B組

場 所 2年B組教室

1 単元(題材)名

第2章 雲のでき方と前線

2 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学びに取り組む態度】
・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解するとともに、それらの観察・実験の技能を身につける。	・天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性などを見いだして表現する。	・天気の変化に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。

3 展開 (全6時間)

時間	○学習内容・学習活動 ★【活動の工夫・問いの工夫】
1	○水蒸気をふくむ空気のかたまりの温度が下がり、露点に達すると水蒸気が水滴に変化することから、どのような時に温度が下がり露点に達するのかその条件を考える。 ★【活動の工夫】気圧の変化以外の条件で身近な現象から水滴ができる現象を探し出し、意見の交換を行う。 【実験】気圧の低いところで起こる温度変化について実験を行い、気圧が減少すると空気のかたまりの温度が下がることを確認する。
2	○雲のでき方を知る。 【実験】水蒸気をふくむ空気のかたまりの気圧が下がると空気が膨張し温度が下がり露点に達し雲ができることを確認する。
3	○発生する場所やでき方による雲の種類を学ぶ。雪やあられ、雷などがどのようにしてできるのかを知り、地表に降った雨や雪の、その後の水の循環について考える。
4 (本時)	○空気の性質を知り、前線の天気の変化について考える。 ★【問いの工夫】「気象衛星ひまわりの動画より、雲の動きや予想される気象現象を推察してみよう。また、その現象がなぜ起こるのか考えてみよう。」 ★【活動の工夫】複数の衛星画像の動画からどのような共通した気象現象が起こっているのか、また起こる理由について考え意見交換を行う。その後、自分の記録した気象観測データの中に前線の存在を確認し、気象現象との関連を考える。
5	○温帯低気圧の発達から衰退までの過程を追うことにより、そこでできる前線の立体的な構造と種類について理解する。 ・前線通過時のデータを読み取り、通過にともなう天気の変化について意見の交換を行う。
6	○前線通過時にはどのような現象が起こるのかを気象データの変化より読み取り、生活にどのような影響があるのかを知る。 ・前線通過の複数のデータから、災害を予想し生活の中に生かす工夫について話し合う。

4 本時の展開

ねらい:空気の性質を知り、前線の天気の変化について考える。

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	<p>個 本日の気象観測</p> <p>○本時の目標の確認</p>	<p>・顕著な気象現象がみられる時は、その現象に関して簡単に説明を行う。</p>	
展開 (40分)	<p>気象衛星ひまわりの動画より、雲の動きや予想される気象現象を推察してみよう。また、その現象がなぜ起こるのか考えてみよう。</p>		
	<p>○空気の性質について考える。</p> <p>集 前線付近で起こる気象現象について、気象衛星画像の動画を観察し、雲の動きによりどのような気象現象が共通に起こっているのかを観察し、グループ内で意見交換し発表する。</p> <p>集 補助資料を使い、観察した現象が起こる理由について、グループ内で意見交換し発表する。</p>	<p>・予想される回答。 渦が巻いている 雲が西から東に動いている。 雲が広がっていく</p> <p>・予想される回答。 温度を平均にするから 風が吹くから 暖かいところと寒いところが混ざるから。</p>	<p>【知・技】 暖気と寒気の接し方のちがいにより、種類の異なる前線がつけられることを理解している。(ワーク)</p>
	<p>○性質の異なる空気の動きを知る。</p> <p>【実験】水を利用し、暖かい空気と冷たい空気は混ざり合わないことを確認する。</p> <p>前線にはその性質により四つの種類があり、その周辺では雨が降るなど天気の変化することが多いことを知る。</p>	<p>・性質の異なる空気は密度がちがうためすぐには混じり合わないことを理解させる。</p> <p>・前線の種類と記号 寒冷前線・温暖前線・停滞前線・閉塞前線</p>	
終末 (5分)	<p>個 気象観測データの天気図の中に前線が描かれていた場所があったかを、どのような天気となっていたか確認する。</p>	<p>・授業日の天気図に前線が見られない場合は、気象庁ホームページより過去の天気図の中で確認させる。</p>	

○授業観察の視点(全教員共通)

- ①主体的に考え、学びに向かう姿勢を引き出すための工夫はどうであったか。
- ②問いの工夫、活動の工夫は主体性を引き出すのに適切であったか。
- ③生徒は主体性を発揮できていたか。